

飯泉知事—左—に文献調査中止について説明する沢山町長 (徳島県庁)



# 経産相「核廃誤解」

# 東洋町民「民意を無視」

# 沢山町長も不快感

【室戸】原子力発電環境整備機構(原環機構)が二十五日、安芸郡東洋町での高レベル放射性廃棄物最終処分施設の文献調査を断念し、国に計画変更を申請したことを受け、町内では「これでやっと終わる」などとあらためて安堵(あんど)の声が開かれた。一方、甘利明・経済産業相が「誤解をしたまま賛否が諮られた」と発言したことに対し、「選挙の民意を無視した発言」と強く反発する声が上がっている。(海路佳孝)―一面参照

選挙期間中、至る所のふんと減った。甲浦地区の七十代女性は、原環機構の計画変更について、「ああ、そつですか。もう選挙も終わったし安心します」と淡々とした口調。核廃棄物拒否条例制定の直接請求も田嶋裕起町長(当時)のリコーり前」とした上で、「

東洋町の沢山保太郎町長は二十五日、徳島県庁に飯泉嘉門知事を訪ね、「心配をおかけした。原子力発電環境整備機構(原環機構)、国の方で正式に取り下げが決まり次第、また報告させていただきます」と説明した。

## 沢山町長徳島知事らにも報告

いければ」と話した。沢山町長はこの日、五軒家憲次・海陽町長ら海部郡三町長ともそれぞれ町役場で会談。「町民の皆さんには(反対署名など)ご支援をいただき助かった」とお礼の言葉を述べたのに対し、三町長は「速やかに対応していただき、ありがとうございます」「賢明な判断」「ずっと気をもんだが、良かった」と感じた。

これに対し、飯泉知事は「速やかに公約を履行に移されたことは何よりだ。東洋町と徳島県は単なる隣接地域ではなく、海部郡三町と生活が一体の地域。今後、共に発展していけるよう頑張ってい

千票を超える差が付いた結果は大きい。われわれも沢山(保太郎)さんを担ぎ上げた責任があったのでほっとしている」と表情を緩ませた。今回の選挙結果について、甘利大臣は二十四日の閣議後の会見で「(安全性について)誤解したまま賛否が諮られると、当然誤解に基づいてですから、こういう結果が出ると思います」と発言。これに対し、町内からは「そんなに安全ならほかに名乗り出るころもあるはず。原発の事故隠しも続いているし、安全な施設と言われても国は信用できない」「原発自体は否定しないが、大臣の発言は、東洋町民の感情

とズレがある」「地震が来たときのデータなんかもない。それも無いに安全と言う。誤解しているのは国の方」と反発の声が続々。沢山町長も「これまでに国側主催の勉強会だけでなく、賛成、反対双方の専門家を呼んだ講演会も開かれている。選挙はそれらを聞いた町民が判断した結果であり、民主主義の根幹を否定する発言」と不快感を示した。

また、沢山町長は「調査への応募は、住民投票や、少なくとも議会の承認などを要件に入れるべきだ」とする見解を示した。